

未就園児を持つ保護者向けアンケート調査結果 (サマリー)

-未就園児を持つ家庭における保育サービス利用ニーズ等について-2022 年 5 月

株式会社日本総合研究所



本調査を実施した背景・目的

日本ではこれまで、待機児童の解消・女性の就業率向上に向けて保育の受け皿整備に注力しており、「新子育て安心プラン」の中では2021年度から2024年度末までの4年間で約14万人分の保育の受け皿を整備¹することを目標に掲げています。

一方で日本の少子化はコロナ禍も相まって加速傾向にあり、2021 年 4 月時点で 8 割超の市区町村で待機児童は解消されており²、一部の自治体では既に空き定員が発生し利用者確保に苦戦が強いられている状況です。今後保育所の空き定員はさらに増加が見込まれることから、これらを子育て支援の観点からどのように活用していくべきか、喫緊で検討を進める必要があります。

本調査では、今後増加が見込まれる保育所の空き定員について、未就園児をもつ家庭の子育て支援の受け皿としての活用可能性を検討するため、未就園児をもつ保護者に対するアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の実施にあたっては、現状保育所等の定期的な保育サービスを利用している家庭³(以下定期サービス利用者)と利用していない家庭(以下定期サービス未利用者)の 2 区分で大別して集計することで、子どもの就園状況別で調査結果を比較できるよう設計しました。

最後に、本調査にご協力いただいた関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

株式会社日本総合研究所

³ 本調査では、1 番上の年齢の子どもが「保育所や幼稚園等の施設を定期的に利用している」と回答した数を「定期サービス利用者」、「保育所や幼稚園等の施設を定期的に利用していない」と回答した数を「定期サービス 未利用者」として集計を行った。



¹ 厚生労働省「新子育て安心プラン」の公表について」(令和 2 年 12 月 21 日)

² 厚生労働省「令和3年4月の待機児童数調査のポイント」



目次

本調査を	空実施した背景・目的	2
アンケー	ト調査概要	4
参考.	回答者と子どもとの関係	5
参考.	同居している子どもの人数	5
参考.	同居している一番上の年齢の子どもの年齢	5
参考.	同居している一番上の子どもの就園状況	5
参考.	回答者の居住地	6
アンケー	ト調査結果サマリー	7
(1)	定期サービス未利用者の定期保育サービスの利用意向	7
(2)	自治体等の一時預かりサービスの利用実績	9
(3)	回答者自身の生活や子育でに関する感じ方	10
(4)	まとめ・考察	12
参考	アンケート調査票	14



アンケート調査概要4

項目		内容											
調査名称		定期的な保育サービスを利用していない家庭における保育所等の定期利 用ニーズに関する調査											
調査目的	ていない家庭の	保育園、幼稚園等定期的な保育サービスを利用している家庭と利用していない家庭の実態把握定期的な保育サービスを利用していない家庭の保育所等の利用ニーズの把握											
調査方法	インターネット上で	インターネット上での回答											
調査期間	2022年3月3日(2022年3月3日(木) ~3月7日(月)											
調査対象	全国のGMOU! (父親または母		のうち、長	子が未就	学児の保	護者							
調査対象者数	2000件												
	■長子の学年および定期サ	ナービス利用状況											
調査対象者数内訳		n	0歳児 (2020/4/2 ~2022年生 まれ)	1歳児 (2019/4/2 ~2020/4/1 生まれ)	2歳児 (2018/4/2 ~2019/4/1 生まれ)	3~5歳児 (2015/4/2 ~2018/4/1 生まれ)							
	定期サービス利用者	800	-	200	-								
	定期サービス未利用者	1200	300	300									
	全体	2000	500	500	500	500							

^{※1}番上の年齢の子どもが「保育所や幼稚園等の施設を定期的に利用している」と回答した数を「定期サーゼス利用者」、 「保育所や幼稚園等の施設を定期的に利用していない」と回答した数を「定期サービス未利用者」としてかント。

⁴ 本アンケート調査は認定 NPO 法人フローレンスの委託を受けて実施。

参考. 回答者と子どもとの関係

	N	%
母親	1236	61.8%
父親	764	38.2%
合計	2000	100.0%

参考. 同居している子どもの人数

	N	%
1人	1311	65.6%
2人	604	30.2%
3人	74	3.7%
3人 4人	6	0.3%
5人以上	5	0.3%
同居している子供はいない	0	0.0%
合計	2000	100.0%

参考. 同居している一番上の年齢の子どもの年齢

	N	%
0歳児(2020年4月2日~2022年生まれ)	500	25.0%
1歳児(2019年4月2日~2020年4月1日生まれ)	500	25.0%
2歳児(2018年4月2日~2019年4月1日生まれ)	500	25.0%
3歳児(2017年4月2日~2018年4月1日生まれ)	253	12.7%
4歳児(2016年4月2日~2017年4月1日生まれ)	156	7.8%
5歳児(2015年4月2日~2016年4月1日生まれ)	91	4.6%
合計	2000	100.0%

参考. 同居している一番上の子どもの就園状況

	N	%
保育所や幼稚園等の施設を定期的に利用している	800	40.0%
保育所や幼稚園等の施設を定期的に利用していない	1200	60.0%
合計	2000	100.0%



参考. 回答者の居住地

	N	%
北海道	85	4.3%
青森県	13	0.7%
岩手県	18	0.9%
宮城県	44	2.2%
秋田県	22	1.1%
山形県	13	0.7%
福島県	25	1.3%
茨城県	34	1.7%
栃木県	24	1.2%
群馬県	25	1.3%
埼玉県	112	5.6%
千葉県	98	4.9%
東京都	234	11.7%
神奈川県	155	7.8%
新潟県	29	1.5%
富山県	20	1.0%
石川県	13	0.7%
福井県	12	0.6%
山梨県	8	0.4%
長野県	30	1.5%
岐阜県	41	2.1%
静岡県	56	2.8%
愛知県	161	8.1%
三重県	33	1.7%
滋賀県	27	1.4%
京都府	34	1.7%
大阪府	157	7.9%
兵庫県	99	5.0%
奈良県	19	1.0%
和歌山県	13	0.7%
鳥取県	7	0.4%
島根県	9	0.5%
岡山県	37	1.9%
広島県	53	2.7%
山口県	19	1.0%
徳島県	9	0.5%
香川県	16	0.8%
愛媛県	13	0.7%
高知県	5	0.3%
福岡県	53	2.7%
佐賀県	15	0.8%
長崎県	15	0.8%
熊本県	24	1.2%
大分県	12	0.6%
宮崎県	12	0.6%
鹿児島県	20	1.0%
沖縄県	27	1.4%
合計	2000	100.0%



アンケート調査結果サマリー

(1) 定期サービス未利用者の定期保育サービスの利用意向

定期サービス未利用者の約56%が定期保育サービスを「利用したい」との回答であり、過半数以上の家庭で利用ニーズがあることがわかった。特に低年齢の子どもを持つ家庭ほど利用ニーズが高い傾向が見られた。

また利用したい場合に希望する頻度と時間は、平均週 1.8 日、1 回あたり平均 4.5 時間であり、通常の定期保育サービスでは受け入れられないほど低頻度・短時間での利用ニーズであることが伺える。

■定期保育サービスの利用意向(単一回答)

	ln	とても		まあい	利用した	どちい	らでもな	あまり利用し たくない	まったく利用 したくない	(再掲) とても利用し たい/まあ利 用したい
未利用_0歳児	300		24.0%		37.0%		27.3%	6.7%	5.0%	61.0%
未利用_1歳児	300		23.0%		35.3%		29.0%	7.0%	5.7%	58.3%
未利用_2歳児	300		23.7%		34.0%		25.7%	9.7%	7.0%	57.7%
未利用_3~5歳児	300		25.0%		23.7%		25.7%	11.7%	14.0%	48.7%
未利用者全体	1200		23.9%		32.5%		26.9%	8.8%	7.9%	56.4%

■利用したい場合の利用希望頻度(単一回答)

	n	月に1日	月に2日	週1日	週2日	週3日	週4日	週5日	週平均日数 (日)
未利用_0歳児	183	12.0%	18.0%	25.1%	18.0%	11.5%	2.2%	13.1%	
未利用_1歳児	175	9.1%	13.1%	32.0%	18.3%	16.6%	2.9%	8.0%	1.79
未利用_2歳児	173	8.7%	23.7%	22.5%	20.8%	12.1%	1.7%	10.4%	1.74
未利用_3~5歳児	146	10.3%	11.6%	19.9%	20.5%	15.8%	6.8%	15.1%	2.19
未利用者全体	677	10.7%	16.9%	25.4%	18.8%	13.9%	3.1%	11.2%	1.87

■利用したい場合の1回あたりの利用希望時間(単一回答)

	n	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	平均時間
	l''	10(10)	25()[8)	SP() (B)	450 (8)	300 (B)	OP() (B)	7 5 (18)	OPTIES	(時間)
未利用_0歳児	183	2.2%	7.7%	27.3%	20.2%	16.4%	7.7%	3.3%	15.3%	4.54
未利用_1歳児	175	1.7%	8.6%	24.6%	20.6%	14.3%	18.3%	1.7%	10.3%	4.50
未利用_2歳児	173	1.7%	7.5%	21.4%	22.0%	20.8%	13.3%	3.5%	9.8%	4.55
未利用_3~5歳児	146	2.1%	5.5%	24.0%	17.8%	22.6%	15.1%	4.8%	8.2%	4.59
未利用者全体	677	1.9%	8.1%	23.5%	19.2%	19.1%	13.3%	3.2%	11.7%	4.54

利用したい場合に支払い可能な月額の利用金額についての数値回答結果では、中央値は 5008 円/月、 平均値は 12716 円/月であった。また 0~6000 円の間の回答で全体の約 51%を占める結果となっており、 高額な利用金額を支払う想定はされていないことが伺える。



上記月額の利用金額を利用希望頻度で除して算出した、利用 1 回あたりの支払い可能な利用金額⁵の集計結果では、中央値が 1500 円/回、平均値が 2204 円/回であった。また 1 回あたり 0~2500 円の間の回答で 8 割を超える結果となっており、おおよそ自治体の一時預かりサービスに近い金額感⁶であることが伺える。



定期保育サービスの利用意向について属性別で見ると、子どもへの愛着度が低い、世帯年収が低いほど利用 意向が低い傾向が見られた。また親が子育ての中で孤独を感じている、虐待リスクがある家庭ほど利用意向が 高い傾向が見られた。これらの結果から、定期サービス未利用者へ定期保育サービスを提供することが親の孤独 感の解消、虐待リスクの低減につながる可能性が高いことが伺える。



⁵ 回答者ごとに月額の支払可能な利用金額を月あたりの利用希望頻度で除して算出した。月あたりの利用希望頻度は、選択肢毎にそれぞれ「月に1日」=1日、「月に2日」=2日、「週1日」=4日、「週2日」=8日、「週3日」=12日、「週4日」=16日、「週5日」=20日とした。

⁶ 横浜市の利用料は1日・1人あたり3歳未満児が2,400円、3歳以上児が1,300円であった(横浜市HP「一時保育のご案内」より)。



また、仮に定期保育サービスの利用を任意とした場合、親が自発的に利用しない家庭の方がネグレクトが発生する可能性が高いことが伺える。子育て世帯のネグレクトの問題を未然に防ぐという観点においては、全家庭一律で定期利用を促進する、要観察の家庭に特に利用を促す等の支援策も検討が必要ではないか。

■世帯年収×定期保育サービスの利用意向(単一回答)

	n	とてたい	も利用し	まあ	利用した	どち	らでもない	あまり利用し たくない	まったく利用 したくない	(再掲) とても利用し たい/まあ利 用したい
200万円未満	47		31.9%	1	14.9%		29.8%	6.4%	17.0%	46.8%
200万円~400万円未満	154		27.3%		31.8%		29.9%	7.1%	3.9%	59.1%
400万円~600万円未満	361		22.4%		34.3%		28.8%	8.6%	5.8%	56.8%
600万円~1000万円未満	334		22.8%		37.4%		23.4%	10.8%	5.7%	60.2%
1000万円以上	105		31.4%		27.6%		23.8%	7.6%	9.5%	59.0%

■子どもへの愛着度(子どもがかわいくてたまらない)×定期保育サービスの利用意向(単一回答)

	n	とても利用し たい	まあ利用したい	どちらでもない	あまり利用し たくない	まったく利用 したくない	(再掲) とても利用し たい/まあ利 用したい
あてはまる	671	26.1%	33.4%	24.0%	9.4%	7.2%	59.5%
ややあてはまる	371	23.2%	36.1%	28.0%	7.8%	4.9%	59.3%
あまりあてはまらない	111	19.8%	21.6%	42.3%	6.3%	9.9%	41.4%
あてはまらない	47	8.5%	17.0%	23.4%	12.8%	38.3%	25.5%

■親の孤独感 (子育ての中で孤独を感じる) ×定期保育サービスの利用意向 (単一回答)

	ln .	とてたい	も利用し \	まあい	利用した	どち	らでもない			(再掲) とても利用し たい/まあ利 用したい
あてはまる	180		36.7%		33.9%		20.6%	6.7%	2.2%	70.6%
ややあてはまる	345		24.6%		33.0%		27.5%	8.7%	6.1%	57.7%
あまりあてはまらない	419		19.3%		35.3%		30.8%	7.9%	6.7%	54.7%
あてはまらない	256		21.5%		26.2%		24.2%	11.7%		47.7%

■虐待リスク (子どもに手をあげてしまいそうなことがある) ×定期保育サービスの利用意向 (単一回答)

	n	とてたい		まあい	利用した	どち	5らでもない	あまり利用し たくない	まったく利用 したくない	(再掲) とても利用し たい/まあ利 用したい
あてはまる	145		46.2%		28.3%		15.2%	7.6%	2.8%	74.5%
ややあてはまる	357		23.0%		33.3%		30.5%	7.0%	6.2%	56.3%
あまりあてはまらない	326		21.5%		31.9%		29.8%	8.9%	8.0%	53.4%
あてはまらない	372		18.3%		33.9%		25.5%	10.8%	11.6%	52.2%

(2) 自治体等の一時預かりサービスの利用実績

これまでに自治体の一時預かりサービスを利用したことがある保護者は全体の1割強にとどまっており、一時預かりサービスの利用は限定的であることが伺える。また全てのサービス項目において定期サービス未利用者の方が利用したことがある割合が少なく、また1つも利用したことがない割合も7割超であり、既存サービスの活用にハードルがあることが伺える。

自治体の一時預かりサービスを利用しない理由としては、割合が大きい順に「子どもを預ける必要性を感じない」「保育料が高い(高そう)」「予約を取るのが面倒(面倒そう)」であった。



■これまでに利用したことがある保育サービス(複数回答)

	n	自治体など が行っている 一時預かり サービス	ファミリー・サ ポート・セン ター	民間のベビー シッターサー ビス	病児保育	個人的に 知っている人 に子どもを預 ける	その他	利用したこと があるサービ スは1つもな い
定期サービス利用者	800	15.1%	9.0%	5.0%	9.3%	10.4%	0.6%	64.5%
定期サービス未利用者	1200	11.9%	4.7%	3.8%	3.5%	6.9%	1.5%	75.4%
全体	2000	13.2%	6.4%	4.3%	5.8%	8.3%	1.2%	71.1%

■自治体などが行う一時預か	りサービスを利	用しない理由	(複数回答)						_					
		一時預かり 施設の場所 が家から遠い から		利用できる 時間が限ら れている (限られてい そうだ) から		している人か	子どもを預け る必要性を 感じないから	仕事以外の 理由で子ども を預けるのに は罪悪感が	保育者に預 けられるの	どんな保育 者がいるかわ からなくて不	ど利用開始までの手続き	自分の予定にあわせて予	サービスを利用できる子どもの在齢が	その他
定期サービス利用者	679	7.2%	10.2%	13.1%	30.0%	9.1%	29.6%	13.1%	15.8%	15.8%	16.3%	15.5%	2.5%	4.7%
定期サービス未利用者	1057	5.9%	9.6%	7.5%	27.5%	8.3%	41.7%	11.0%	11.5%	14.5%	14.3%	16.2%	3.8%	6.0%
全体	1736	6.4%	9.8%	9.7%	28 5%	8.6%	37.0%	11.8%	13.2%	15.0%	15.1%	15.9%	3 3%	5 5%

一方で、「自分が預けたいタイミングで子どもを預けられる先がほしいか」を問う設問では、「あてはまる」との回答が約7割であった。一時預かりサービスの利用経験者が1割強である点を考慮すると、既存の一時預かり事業は子育て支援の受け皿として十分機能していない可能性がある。

■自分が預けたいタイミングで子どもを預けられる先がほしい(単一回答)

	n	あてはまる	ややあてはま る	+0+44	あてはまらない	(再掲)あ てはまる/や やあてはまる	(再掲) あ まりあてはま らない/あては まらない
定期サービス利用者	800	25.3%	45.3%	21.4%	8.1%	70.5%	29.5%
定期サービス未利用者	1200	28.3%	41.8%	20.2%	9.8%	70.0%	30.0%
全体	2000	27.1%	43.2%	20.7%	9.2%	70.2%	29.8%

(3) 回答者自身の生活や子育てに関する感じ方

定期サービス利用者と定期サービス未利用者の間で、「ほっとできる時間や場所がある」「子育ての中で孤独を感じる」「同世代の遊び相手がもっといるとよいと感じる」の設問で「あてはまる/ややあてはまる」の割合に 6 ポイント以上の差が見られた。特に孤独感に関する設問は 10 ポイント以上の差があり、定期サービス未利用者ほど孤独を感じやすい環境であることが伺える。



■生活や子育でに関する感じ方(単一回答)								
	長子の定期サービス利用状況	n	あてはまる	ややあてはま る	あまりあては まらない	あてはまらない	(再掲) あ てはまる/や やあてはまる	(再掲) あ まりあてはま らない/あては まらない
子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと感じる	定期サービス利用者	800	36.4%	48.1%	11.9%	3.6%	84.5%	15.5%
子ともを育てるのは来してく辛せなことだと思しる	定期サービス未利用者	1200	41.2%	42.6%	11.8%	4.5%	83.8%	16.3%
フレナがわれいフェキャナン	定期サービス利用者	800	52.9%	33.4%	11.1%	2.6%	86.3%	13.8%
子どもがかわいくてたまらない	定期サービス未利用者	1200	55.9%	30.9%	9.3%	3.9%	86.8%	13.2%
子育ての悩みや心配ごとについて気軽に相談で	定期サービス利用者	800	24.3%	42.8%	25.6%	7.4%	67.0%	33.0%
きる人がいる	定期サービス未利用者	1200	26.6%	41.7%	22.8%	8.9%	68.3%	31.8%
自分一人で「ほっとできる」時間や場所がある	定期サービス利用者	800	15.4%	38.5%	33.8%	12.4%	53.9%	46.1%
日ガー人ではってできる」时间で場所がある	定期サービス未利用者	1200	12.2%	35.7%	34.8%	17.4%	47.8%	52.2%
子育てや家事に追われ疲れ切っている	定期サービス利用者	800	19.9%	42.5%	29.6%	8.0%	62,4%	37.6%
于自てい外事にはかればればいっている	定期サービス未利用者	1200	20.7%	36.2%	31.6%	11.6%	56.8%	43.2%
自分が子育てをちゃんとできているかわからず、	定期サービス利用者	800	20.0%	46.3%	25.4%	8.4%	66.3%	33.8%
不安だ	定期サービス未利用者	1200	24.4%	43.3%	23.6%	8.8%	67.7%	32.3%
子育ての中で孤独を感じる	定期サービス利用者	800	10.1%	23.1%	42.8%	24.0%	33.3%	66.8%
子育での中で加強を感じる	定期サービス未利用者	1200	15.0%	28.8%	34.9%	21.3%	43.8%	56.3%
日々の生活の中で金銭的な不安を感じる	定期サービス利用者	800	27.4%	35.5%	28.0%	9.1%	62.9%	37.1%
日々の生活の中で金銭的な不安を懸しる	定期サービス未利用者	1200	27.3%	35.1%	26.1%	11.6%	62.3%	37.7%
子どもに手を上げてしまいそうなことがある	定期サービス利用者	800	11.9%	30.3%	29.1%	28.8%	42.1%	57.9%
子とのに子を下りてのないとうなどにいめる	定期サービス未利用者	1200	12.1%	29.8%	27.2%	31.0%	41.8%	58.2%
子どもを怒鳴ってしまうことがある	定期サービス利用者	800	22.6%	38.0%	24.8%	14.6%	60.6%	39.4%
7 2 0 2 10 4 7 2 2 7 2 7 2 7 2 7 2 7 2 7 2 7 2 7 2	定期サービス未利用者	1200	22.0%	36.3%	24.1%	17.6%	58.3%	41.7%
日々の家事・育児の負担が多いと感じる	定期サービス利用者	800	22.8%	41.8%	28.9%	6.6%	64.5%	35.5%
ロベの水事・自元の見担が多いで感じる	定期サービス未利用者	1200	21.8%	38.8%	28.6%	10.8%	60.6%	39.4%
自分が預けたいタイミングで子どもを預けられる	定期サービス利用者	800	25.3%	45.3%	21.4%	8.1%	70.5%	29.5%
先がほしい	定期サービス未利用者	1200	28.3%	41.8%	20.2%	9.8%	70.0%	30.0%
少ない頻度や時間でも定期的に子どもを預けら	定期サービス利用者	800	20.1%	44.5%	26.6%	8.8%	64,6%	35.4%
れる先がほしい	定期サービス未利用者	1200	23.8%	40.9%	23.5%	11.8%	64.7%	35.3%
同世代の遊び相手がもっといるとよいと感じる	定期サービス利用者	800	30.6%	44.5%	19.6%	5.3%	75.1%	24.9%
円に1~い屋び付子かもつといってよいと感じる	定期サービス未利用者	1200	37.9%	43.3%	12.7%	6.1%	81.3%	18.8%
親以外の大人の遊び相手がもっといるとよいと	定期サービス利用者	800	25.0%	45.5%	23.8%	5.8%	70.5%	29.5%
感じる	定期サービス未利用者	1200	29.6%	41.8%	21.2%	7.4%	71.4%	28.6%



(4) まとめ・考察

【まとめ】

- 未就園児を持つ家庭の過半数が定期的な保育サービスの利用を希望している
 - 未就園児を持つ家庭において定期保育サービスについて「利用したい」との回答は56%程度であり、 過半数の家庭で利用ニーズがあることがわかった。(p.7)
 - ▶ 利用したい場合の希望頻度としては、週1~2日、1回あたり3~5時間が多く、通常の定期保育サービスより低頻度・短期間での利用ニーズであることが伺える。(p.7)
- 現状未就園児を持つ家庭の子育て支援事業として提供されている自治体などの一時預かりサービスは利用実績が少なく、子育て世帯の支援策として十分機能していない
 - ▶ 自分が預けたいタイミングで預けられる先がほしい家庭が約 7 割である一方で、自治体などが行っている一時預かりサービスを利用したことがある家庭は 1 割強であり、既存の一時預かりサービスの枠組みでは希望者に対して十分な支援が行えていないことが伺える。(p.10)
- 未就園児をもつ家庭の方が親は孤独を感じやすく、また同世代の子どもの遊び相手が必要と感じている
 - ▶ 未就園児を持つ家庭の方が就園児を持つ家庭と比べて「子育ての中で孤独を感じる」と回答した割合が10ポイント程度高かった。また「自分ひとりでほっとできる時間や場所がある」と回答した割合は未就園児を持つ家庭の方が6ポイント程度低く、未就園児の保護者ほど自分の生活に孤独や制約を感じやすいことが伺える。(p.11)
 - ▶ また「同世代の遊び相手がもっといるとよいと感じる」と回答した割合は未就園児をもつ家庭の方が6 ポイント程度高かった。(p.11)
- 定期保育サービスの利用ニーズは、孤独を感じている家庭、虐待リスクが高い家庭ほど高い
 - ▶ 「子育ての中で孤独を感じる」「子どもに手をあげてしまいそうなことがある」と回答した家庭ほど、そうでない家庭と比べて定期保育サービスを利用したい割合が高かった。(p.9)
- 定期保育サービスの利用ニーズは、子どもへの愛着度が低い家庭ほど低い
 - ▶ 「子どもがかわいくてたまらない」に対して「あてはまらない」と回答した利用者ほど定期保育サービスを 「利用したい」割合が低かった。(p.9)

【考察】

- 未就園児を持つ家庭において、子育て支援の一環として低頻度・短期間の定期保育サービスの枠組みを 提供することが、利用者ニーズ・既存施設の活用双方の観点から有用ではないか。
- 現状の子育て支援策として一時預かり事業があるが、未就園児を持つ家庭が一時預かりを利用する場合、 見知らぬ他人にわが子を預けることに不安を感じる保護者も多い。事前に施設を見学して保育者との信 頼関係を構築し、利用者登録や利用時の予約、金銭面等のハードルをクリアしてようやく利用に至るわけ だが、「そこまでするほどではない」ことから、一時的に子どもを預けたいニーズは高いものの実際の利用に至 っていないと思われる。また、一時預かりを受け入れる施設側にとっても、普段接していない子どもを預かる ことは高い保育スキルを有する保育者を配置する必要があるため実施のハードルが高い上、金銭的補助も 十分でないことから積極的な利用促進に踏み切れておらず、結果として十分な役割を果たせていない可 能性がある。



- 未就園児を持つ家庭の子育て支援の一環として、現状の一時預かりの枠組みだけではなく、低頻度・短時間での「短時間登園」のような定期保育サービスを提供することができれば、施設側・利用者側それぞれの施設利用における課題を軽減することができるのではないか。特に今後全国的に発生が見込まれる保育所の空き定員の活用は喫緊の検討課題であるが、活用方法を検討するにあたっては施設側も受け入れやすい制度設計が必要である。その観点からも、一時預かりと比較して利用者と保育者との信頼関係を構築しやすい定期利用を前提とした制度の検討が有用と考えられる。
- また利用者側の視点としては、低頻度・短時間での定期保育サービスの枠組みを設けることで、施設と継続してつながりを持てるようになり、日頃の何気ない雑談や子育てに関する悩みを相談しやすくなる。実際、アンケート結果でも孤独を感じている保護者や虐待リスクがある保護者ほど利用ニーズは高く、施設と継続的につながれる仕組みが保護者の孤独感の解消、虐待リスクの軽減に大きく寄与するものと考えられる。
- 現状の保育認定を受ける際の「保育を必要とする事由」は、仕事や介護等により親自身で子どもを育てる時間が確保できないことを前提とされているが、仮に親自身で子どもを育てる時間が確保できる場合であっても「親の心的負担を軽減するため」「同世代の遊び相手をつくるため」という事由は十分「保育を必要とする事由」に該当するのではないだろうか。保育所の量的な整備はほぼ実現した中で、質の向上に向けて改めて保育所の役割を再定義するとともに、未就園児をもつ家庭も含めた多様な保育ニーズに対応できる環境整備を進めていくことが重要ではないだろうか。



参考. アンケート調査票









世帯全体の年		-
(ひとつだけ) (4	(項)
○ 200万円未	商	
○ 200万円~	400万	円未満
○ 400万円~(500万	円未満
○ 600万円~4	800万	円未満
○ 800万円~	1000F	円未満
○ 1000万円~	-1200	万円未
○ 1200万円~	1500	万円未
○ 1500万円~	-2000	万円未
〇 2000万円以	上	
○ わからない Q19. お子様の[Ot		福後(
Q19.	ext]ħ	
Q19. お子様の[Ot	ext] <i>h</i> それそ	
Q19. お子様の[Ot (各たて列で	ext] <i>h</i> それそ	eno
Q19. お子様の[Ot (各たて列で 中学校	ext]か それそ 父親	田親 田親
Q19. お子様の[Ot (各たて列で 中学校 高等学校	ext]か それそ 父親	e の の の
Q19. お子様の[Ot	ext]か それそ 父親	おおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおからおおから
お子様の[01	ext]か それそ 父親	### O O O
Q19. お子様の[Ot (各たて列で 中学校 高等学校 専門学校	ext]か それそ 父親 〇	### () () () () () () () () ()
Q19. お子様の[Ot (各たて列で 中学校 高等学校 専門学校 短期大学	extjか それぞ 父親	年税○○○○○

本調査に関する問い合わせ先

株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 福田 隆士 fukuda.t@jri.co.jp